

独大手ソフトウェア系の拠点を
国内初開設したザイナス副社長



大分市のIT企業ザイナスは4月、独ソフトウェア大手SAP(エス・イー・ピー) 日本法人とパートナーシップを結んだ。両社の契約で象徴的なのが、IT技術を使って企業の課題解決やアイデア創出を支援するコンサルティング拠点「ザイナス アップハウス オオイタ」の開設だ。

「アップハウス」は16カ国・地域のIT企業18社がSAPと契約して運営している。大分は23カ所

ITで地域活性化目指す

目の拠点で、国内では初となる。打診は昨年2月。「軽い気持ちで受けたら、すぐに話が具体的になった」と外資系企業ならではの素早い決断と行動力に圧倒されたという。

SAPジャパンとの交流は、大分を舞台に開発された災害情報活用プラットフォーム「EDISON(エジソン)」のシステム構築を共同で担ったのがきっかけ。

「今回の契約は協業の集大成。農林水産業者などにも幅広く活用してもらい、IT技術を使った地域活性化を目指したい」と語る。

2015年に神戸大(神戸市)を卒業後、神奈川県内の半導体専門商社で2年間、設計に使うシステムの営業をした。子会社への出向などを経験した後、19年にザイナスへ入社し、21年から現職。

昨年10月、長男が生まれ公私ともに転機が重なった。妻と3人、大分市明野で暮らす。

江藤 彰悟さん(32)

(富高萌南実)

